

# 新聞投書を利用したジェンダー意識調査の意義\*

## —調査が無効となる日—

熊 谷 滋 子

### はじめに

新聞投書（以後、投書とする）は、時代や社会を映す鏡であり、市民の思いが表現されるものである。様々な研究が、投書を引用したり、調査対象としながら行なわれるようになってきており、投書への関心も高まってきている。フェミニズムの視点、ジェンダー研究からも投書は興味深い研究対象となっている。ジェンダー視点からみた投書の文体の研究は、国緒（1987）、佐竹（1995）、日尾（1996）、熊谷（1996）などでなされている。詳細はそれらを参照されたい。

本稿では、投書の文体自体の研究というよりも、投書を利用したジェンダー意識調査（以後、投書調査と略す場合がある）の意味、意義について論じていきたい。投書調査は、3で後述するように、1995年、ふとしたことがきっかけで始め、その後これまで8年も続けてきたものである。文章から書き手の性が推測できるかという素朴な疑問から端を発したこれまでの投書調査について、本稿では、調査の有効性について総括しつつ、検討していく。これまで、1995年に行なった調査は熊谷（1997）において、1999年から2001年にかけて行なった調査は、熊谷（2002）においてまとめながら論じているが、それ以外の調査については、全体としてまとめておくことがなかった。本稿では、最近の投書調査をまず紹介しつつ、さらにこれまで行なってきた投書調査をあらためてフォローしながら、調査活動に関わらざるをなくなっていった個人的動機を語ることを含め、調査の進め方の変化、推移、および調査自体の可能性と限界についてとらえなおしてみた。そして、自己矛盾になるが、副題で示したように、ゆくゆくは投書調査が無効になる日がくることを心の中では願っている。

なお、本稿は次の3点を中心に論じていく。第1に、2003年に行なった投書調査を報告する。これまでは、もっぱら大学生を対象として調査してきたが、浜松市男女共同参画室のご協力のもと、女性学級の受講生である社会人女性（30代～70代）を対象に調査を行なう機会を得ることができた。その結果をみなが

ら、大学生と社会人女性のジェンダー意識を比較検討する。第2に、1995年以降行なってきた、投書調査（6種類）を紹介し、その傾向を探る。その上で、投書の文体・内容のパターンに対する書き手の性をめぐる判断根拠を検討しながら、投書調査が現時点で有効であることを示したい。第3に、投書を利用した意識調査の方法についての有効性について論じていく。

これまでまとめた投書調査でも繰り返し強調してきたことだが、今回も確認しておきたいことがある。投書調査は、大学生や社会人女性の方々の協力なしには成立しえないものであり、また、このような調査の意義を考える機会もなかっただろうということである。特に自由記述欄に書かれている回答者となってくれた方々の率直な意見やコメントの一つ一つが貴重なものとして評価できるものである。よくぞホネを言ってくれたと思うことはあっても、それに対して、意識が低い等の非難をするつもりは毛頭ないし、すべきものでもないということを申し添えておきたい。むしろ、調査している私の方が、いかに自らの内にステレオタイプの発想を深く内面化させてきていたかに気づかされるが多かった。そういう意味で、投書調査は、調査者と回答者の共同作業で成立するものであり、本研究も共同作業の成果であると思っている。

## 1. 2003年の投書調査結果：大学生と社会人女性を対象として

### 1. 1 書き手の性別と年齢に注目

前述したように、これまではもっぱら大学生を対象に投書調査を行ってきたが、社会人女性を対象に調査できる機会を得た。そこで、これまでは、投書の書き手の性別のみを唯一の要因として対象とする投書を選んできたが、今回は、さらに、書き手の年齢を50代以上に限定し、回答者の判断に年齢という要因で差が生じてくるかという点をも考慮してみることにした。つまり、書き手の年齢に近い方が性別判断しやすくなるかという点である。今回は、20歳前後の大学生と30代から70代までの社会人女性ということで、回答者の年齢の巾が広がり、そのメリットを活かそうと考えた。

今回、調査対象とした投書は、これまでの調査をふまえ、次の3点を念頭に入れて選んだ。1点目は、前述したように、書き手の年齢である。50代以上の書き手の投書だけを選ぶことにした。2点目は、「だ・である体」で書かれた投書のみ限定した。これまでの調査から、個人的事柄（書き手の体験談や身内）への言及がない限り、特に「です・ます体」は女性と判断する傾向にあったからである。3点目は、書かれている内容について、いわゆる男女の典型的パター

ンを極力排除しようと考えた。政治・経済・労働等の公的領域としてみなされている内容を扱っていけば男性、家庭・教育・人間模様等の私的領域としてみなされている内容を扱っていけば女性というパターンである。具体的な典型的パターンの投書例は資料(1)にあげているので、そちらを参照されたい。これまで新聞に掲載された全ての投書について書き手の性と投書内容のパターンの割合を調べたわけではない。しかし、これまでの投書調査から、典型的パターンの投書に対する判断が、ある程度存在していることが分かっている。典型的パターンについて、服装のことにあてはめて考えてみると、現在の日本社会において、ほとんどの人は、スカートをはいている人をみれば女性だと判断する。実際にスカートをはく女性の女性全体に占める割合は分からないし、その割合が増加しているのか減少しているのかも分からないが、少なくともスカートをはく人は女性だというパターンに異論を唱える人はいないだろう。服装とはちがって、投書の内容については、私的領域を扱うのは女性だけということはないが、性と内容の典型的な結びつきという点で、今回の調査対象の投書から除外した。

以上の3点を考慮に入れて、今回調査対象とした投書のタイトルは以下の通りである。書き手の個人情報、性、年齢、職業のみをあげている。カッコの中は、掲載年月日である。本稿で扱う投書は全て『朝日新聞東京本社版』のものである。実際の投書は資料(2)にあげているので、そちらを参照されたい。

- |                |               |                |
|----------------|---------------|----------------|
| ①介護の重圧は解消できるか  | 男性・81歳・大学名誉教授 | (1995. 10. 14) |
| ②現代人いやすラジオ深夜便  | 男性・53歳・会社嘱託   | (1999. 10. 3)  |
| ③ギンナン拾い秋の味楽しむ  | 男性・60歳・会社員    | (1999. 10. 7)  |
| ④核兵器「違法」英判事に拍手 | 女性・89歳・主婦     | (1999. 10. 27) |
| ⑤不況の景色を旅行先で見た  | 女性・61歳・看護婦    | (1998. 10. 14) |

これらの投書は、男女どちらかのイメージに結びつきやすい要因（文体、内容）を極力除いたため、これまで以上に判断が難しいものになるだろうと予想した。

投書調査の方法は、書き手の情報（住所、氏名、年齢、職業等）を伏せて、書き手の性を推測してもらおう。その際、性を判断した理由（語彙、言い回し、表現、内容等）を自由に書いてもらうことにしている。

今回回答者として調査に協力してくれたのは、静岡大学の学生73名(20歳前

後、男性 30 名、女性 43 名) と浜松市女性学級を受講している社会人女性 78 名 (30 代 5 名、40 代 11 名、50 代 19 名、60 代 32 名、70 代 11 名) である。調査時期は、2003 年 1 月から 2 月にかけて行なった。ちなみに、学生の約半数は、ジェンダーを扱っている授業の受講生である。社会人女性は、担当者を通して依頼したため面識はなかったが、男女共同参画社会を目指して活動を行なっている、ジェンダー問題に関心の高い方々である。

## 1. 2 調査結果

今回実施した調査結果は、表 1 の通りとなった。

表 1 2003 年投書調査結果 ( ) 内は%

回答者	学 生 (73 名)		社会人 (78 名)		正 解
	男 性	女 性	男 性	女 性	
判断した性					
投書番号					
①	<u>65</u> (89.0)	8(10.9)	<u>68</u> (87.1)	7( 8.9)	男性・81 才・大学名誉教授
②	16(21.9)	* <u>57</u> (78.0)	23(29.4)	* <u>50</u> (64.1)	男性・61 才・会社員
③	<u>54</u> (73.9)	19(26.0)	<u>42</u> (53.8)	29(37.1)	男性・53 才・会社嘱託
④	* <u>45</u> (61.6)	24(32.8)	33(42.3)	<u>35</u> (44.8)	女性・89 才・主婦
⑤	21(28.7)	<u>50</u> (68.4)	11(14.1)	<u>60</u> (76.9)	女性・61 才・看護師

下線部は判断が多かった性

\*は実際の書き手の性と異なる場合

全問正解者 (5 通の投書全部の書き手の性を当てた人) は、偶然にも女子学生 3 名、社会人女性 3 名であった。今回調査対象とした投書は、男女のイメージに結びつきやすい要因を極力はずしたにも関わらず、2 で説明するように、これまで行なった調査の正答率と比べて、極端に落ちることはなかった。つまり、今回の投書が判断しにくかったということでもなかったといえる。

今回の調査の注目点としてあげた、書き手の年齢に近い方が判断しやすいかという点についても、結果からみえてくるのは、数値の上での全体的傾向としては、大学生も社会人女性も共通しているということである。個々にみれば、多少のばらつきはあるし、大学生の方がどちらかというと一方の性に判断が偏る傾向があるものの、全体的には、共通している。年齢によって判断に差がでるわけではないということが分かる。

投稿者に対するイメージも共通しており、男性ならばサラリーマン (または退職者)、女性ならば (専業) 主婦である<sup>(1)</sup>。この点は、熊谷 (1997) で報告し

た投書調査での投稿者のイメージと同様である。詳細は省略するが、投稿者に対するイメージの背景には、性別役割分業体制によって形成されてきた成人男女をめぐるパターン、つまり、「男は仕事、女は家庭」が存在している。しかも、成人女性については特に、家事・育児に専念してきたために、社会的な問題についてはあまり関心がないか、無知であるという否定的なイメージになりがちである。

判断根拠については、1. 3で詳しく扱うが、判断された性と実際の書き手の性のズレについて、若干の説明をあらかじめ加えておきたい。まず、判断がはずれた投書②の書き手は、NHKのラジオ深夜便の「大ファン」であり、番組の中で紹介されるリスナーからの手紙に、現代社会の生きにくさを痛感し、そんな時代だからこそ、人の心をいやすものとして、当番組に期待する気持ちを綴っている。この投書であげられている人は、皆女性であり、亡き母も当番組のファンだったことも紹介している。この投書は、心情を綴ったものとして、また、女性のみが言及されているということで、大学生も社会人女性も書き手を女性と判断している。今回対象とした投書は、内容からも男女の典型的パターンを避けたと述べたが、まさに②の投書は、逆典型的パターンの例ともいえる。

また、投書③④については若干差がみられる。投書③では、書き手が夕方のランニング中にギンナンを拾い、それを絵に描いたり、フライパンで煎って食べたりしていることを伝えている。そこでは、調理方法が書かれているせいか、書き手が女性とも考えられるため、特に社会人女性は、男性とする判断が少なめになったと思われる。投書④は、英国での核軍縮運動に共鳴している女性たちを支持する内容であり、国際政治に関わるテーマゆえ、男性と判断しがちであるが、社会人女性と女子学生は特に、同性を支持しているということで女性とも考えられるとしている。そのため、社会人女性の方が女性と判断する側が男性と判断する側よりかろうじて上回っている。

今回、書き手の年齢を50歳以上に限定したが、大学生も社会人女性も、中高年が書いたということを認識していることが判断根拠に示されている。具体的にみると、語彙・表現でいえば、投書①では「他家に嫁した」「孫娘」、投書②では「かかずらう」「よすが」、投書③では「同好の士」、投書⑤では「冷めた汁」「年金組」等が中高年を感じさせるものとしてあげられている。内容については、投書①では、知人が80歳であること、投書②では、亡くなった母のことが書かれている、投書③では、夕方ランニングができて夜明けにギンナン拾いに出かける人、投書⑤では、(格安)パック旅行に参加している、等の点から、中高年と判断している。

1. 3で紹介するように、大学生も社会人女性もともに、投書の文章から書き手の性を推測するよりも年齢を推測する方が易しいと感想を述べている。このことは何を意味しているのだろうか。ここで、田中（1999:1）が指摘している「位相」「位相差」の定義を紹介したが、若干の論及もしていきたい。

ことばには、性別や世代の違いによって、あるいは社会階層・職業などの違いによって、さまざまな差異や対応がみられる。（中略）

一方、話しことばと書きことば、詩歌と散文など、表現形式の違いによって、ことばの差異や対立がもたらされることもある。演説には演説特有の、また手紙には手紙独特のことばが用いられるというように、場面によって違いが生じる場合もある。

このように、社会的な集団や階層、あるいは表現上の様式や場面それぞれにみられる、言語の特有な様相を「位相」と言い、それに基づく、言語上の差異を「位相差」と呼ぶ。

言語研究において、日本語の話しことばには性差が存在しているといわれてきたが、社会との関わりからことばをみていく際に、日本語における「女ことば」の成立過程、その研究の前提とする発想、実態については様々な研究が行なわれてきたことは周知のことである。最近のものでは、中村（1995, 2001）や遠藤（1997）、現代日本語研究会編（1997）等がある。

日本語の特に話しことばにおける「女ことば」について、金水（2003）が、印象的に命名している「ヴァーチャル日本語」の一つとも考えられる。ここでは、投書という書きことばを扱っているため、金水氏の指摘があてはまらないかもしれないと考えるむきもあるだろう<sup>(2)</sup>。しかし、今回の投書調査からみえてくるのは、位相といっても、性差と世代差には質的な差があるのではないかということである。ことばの特徴の一つとして、例えば単語などが時代の変化とともに意味や含みが変わってきたり、単語自体が生まれたり、消えていく（死語）ことがよくあげられている。

今回行なった投書調査において、大学生も社会人女性もともに、性別よりも中高年が書いたものだと判断しやすかったとする印象をもったとするならば、少なくとも、投書という書きことばにおいて、性差よりも世代差が明示的なのではないかということが分かる。つまり、投書の場合、書き手の世代については、語彙も含め、形式的な部分で確認できるものがあるのではないかと思われる。

る。換言するならば、今回の調査でも性差については、「男は論理的、女は感情的」といったようなイメージが根強くあるが、世代差については、「中高年はこういう単語を使う」という感想はあっても、仮に「中高年は論理的、そうでない者は感情的」といったイメージは出されなかったことからいえる。この点については、「位相」との関わりで、さらに調査していく必要がある。ちなみに、今回対象とした投書は、あくまで書き手の年齢だけに注目して選択しており、中高年が使いがちと思われる語彙や表現を吟味した上で選択したわけではないことをつけ加えておきたい。

### 1. 3 判断根拠からみえてくること

数値の上では大学生と社会人女性の間には決定的な差はなかったが、自由に記述してもらった判断根拠についてはどうだろうか。イメージされている投稿者は、男性ならばサラリーマン（退職者も含む）、女性ならば（専業）主婦という点でも共通している。

まず、判断根拠としてあげられているものに共通している事柄を中心にまとめるが、男子学生のみ、女子学生のみ、社会人女性のみは、それらの記述の直後に、それぞれ（m）、（f）、（A）と付加する。以下に示す判断根拠は、正解か不正解かは問わずに男性、または、女性と判断した根拠に書かれていることをまとめている。

	男 性	女 性
語彙・文体	「うまい」 だ・である体 力強い、堅苦しい、断定的、淡々としている  漢字が多い（f）、知的（f） まわりくどい言い回しが少ない（f）	やわらかい、やさしい、あいまい、断定的ではない  ひらがなの使い方（f） <sup>(3)</sup> 、丁寧（m） 体言止め（m, f）
内容・論理展開など	客観的、論理的、冷静、感情的な部分が少ない、自分の意見を述べている  専門知識がある、政治・経済のことに詳しい  社会情勢をよくみきわめている、社会との関わりがある 視野が広い、全体的にみている	感情的、心情的、情緒的、感情移入している  政治のことは分からない、業界のことはわからない（A）、難しい話をしない（f） 専門家のもつリアリティがあまりない（f）  料理に詳しい、家計を預かる  細かい

個々の投書についてあげられているもの

投書	テーマ	男 性	女 性
①	介護	制度から考える、他人事、切迫感がない	介護で苦勞している
②	ラジオ深夜便	男性は仕事があるので遅くまで聴けない(f) 母のことを思うのはマザコン(m)	主婦は夜更かしができる(f)
③	ギンナン	夕方ランニングできるのは男性、ギンナンの調理法は男のもの(f)	女性は夕方家事で忙しい(f, A)
④	核兵器		同性に強く共感(f, A) 女性の書き手であってほしい(A)
⑤	旅行	業界のことを考えている	バック旅行にいけるのは女性(f, m) 男性は働いているので行けない

以上の判断根拠からみえてくることは、まず第一に、これまでの調査にも登場してきたもので、例えば、語彙・文体では、「男は力強く、女はやさしい」、内容・論理展開等では、「男は論理的、女は感情的」「男は専門知識があり、視野が広いが、女は政治のことは分からず、細かいところをみがち」というパターンである。このようないわゆるステレオタイプの発想については、特に社会心理学者などが精力的に研究し、論じてきている。2. 2で一部扱うが、上述した発想は、近代的、いわゆる二項対立的図式が、性別役割分業体制とうまく結びつき、男女をめぐるイメージに色濃く反映していることが分かる。

第二に、投書②と④に対する判断にみられるように、内容・テーマに性別分業が存在している、または、そのようなイメージをもっているということが分かる。政治は男性、人間模様は女性というイメージである。しかし、投書④について、特に女子学生、社会人女性が強く思っていることとして、政治を扱っていても、女性が行動をおこしている場合、同性として強く支持しているのではないかと判断している。これは、女性のおかれた社会的立場の相対的な弱さを認識しているがゆえに、社会的行動を起こす女性に賛同する気持ちが強く働いて、回答者自身も支持したくなったのかもしれない。

さらに、投書④に関して社会人女性が特に指摘していることをあげると、核兵器関連のテーマは「女性は好まない題材。核の話はきらい、分かりにくい」等が述べられているが、一方で、「でも、この文章を女性が書いたと誰もが思う時代を女性として望む」「このような投書が出来る女性をもっとふえてもいいと

思う」という願望が述べられてもいる。この点は、男女共同参画社会を推進しようとしている日本社会における意識の高まりを示すものと考えられる。書き手の性の推測は、「～であるから女（男）」という視点だけではなく、「～であってほしいから女（男）」という願望によってもなされている。

さらに、投書③に関わって、鋭く指摘されていることを紹介する。ギンナンの調理法をフライパンで煎ることに注目し、特に女子学生は「酒のつまみ」程度であるため、男性と判断している。他の事柄も判断材料となっていると思われるが、男子学生と社会人女性は、意外にも、料理について書かれているため女性と判断する人が少なくなかったということを考えあわせると、女子学生の方が、料理に対する性差の実態をクールにみつめているのかもしれない。

第三に、今回の調査結果は、大学生と社会人女性は共通していると述べてきたが、判断根拠をさらに詳しく読んでいくと、書き手の年齢に近い程、回答者自身の体験を語る傾向にあることが分かる。投書の内容に触発されて思わず自身の経験や見聞きしたことなどを綴りたくなったのだろう。例えば、介護問題を扱った投書①では、「男性は介護から逃げます」「女性が介護してあたりまえの云い方」と述べたり、自身がまさに介護の真っ只中であるための苦労を書きつらねている。投書②では、ラジオ深夜便を自身も日頃聴いているとする記述が少なくなかった。

投書③では、夕方ランニングができるのは男性で、「日常の家事の心配もなく楽しむ様子」があることや、「奥さんが夕食の準備中に一人走っている」男性の例もあげている。よく言われてきた「女の家事には定年がない」とする状況に対する不満が出されている。投書⑤との関連では、年金を含め、老後の経済状況について、不安を覚える旨のコメントが随所にみられた。

以上の体験に裏打ちされたコメントは、ありきたりな言い方になるが、書き手の思いをことばで表現されたものばかりではなく、ことばで表現されていないことも含めて読み込めるとするのは、読み手の側の想像力もさることながら、共通した体験が支えとなって可能となるのであろう。

最後に、調査全般にわたって、自由に感想を書いてもらったものを紹介したい。

#### 1) 文章だけから性別を判断するのは難しい

- 昔であれば、男女の社会的役割の違いが大きかったこともあって判断しやすかったかもしれないが、男だから、女だからという考えが通じなくなり

つつある今では、判断はしにくくなっていると思う。(m)

- 現代では社会に出る女性も少なくないので判断しにくかった。(f)
- 近頃では、女性も男性化してきたので、判断に苦しみました。(A)
- 最近では、女性でも男性っぽく書ける人がいるので難しい。(m)
- 言葉遣いが乱れている世の中、男性か女性かと問われても区別が難しい。(A)

## 2) 年代の方が分かりやすい

- 年齢を読みとる方が性別を判断するより楽に感じた。(f)
- 全体に年配の方の文章だったので、あまり男女差の無い文章だったと思います。(A)

## 3) 体験、視点に男女差がある

- 男性と女性では視点等が違うので考え方も違ってくると思いました。(A)
- 着目しているところが、男性や女性によってちがうと思いました。(m)
- 過去の体験が男女間で受けとめ方が違うところから生まれてくるのではないか。(m)

上であげた1) 2) について、文章だけで性別判断するのは難しく、むしろ年代の方が分かりやすいという指摘は、今回の調査で特に確認できたことである。投書という書きことばについてだけいえるのかさらに検討してみたい。年代の方が分かる理由として、言葉遣いの乱れや女性の男性化等をあげている。今回対象とした投書は、50代以上の書き手であるため、最近の状況がどこまで反映しているか定かではないが、投書文体からそう感じるということは、何らかの形で変化してきていると認識できるものがあるのだろう。

その一方で、3) のように、体験や視点の男女差も依然として存在していると考えられている。3で扱うように、男女のおかれた社会的状況が投書の文体や内容に大きく関わりあっていると認識している。

さらに、大学生、特に女子学生の感想には、授業でジェンダーを扱ったこともあり、自身のジェンダー意識への気づき、偏見についてふれている。

- 書いているテーマが難しいものだったら男性、感情的だったら女性とかいって推測している自分がいました。それは偏見のような気がしています。(f)
- 自分は平等主義だと偉そうに思っただけでも、こうして性を推測する時に、

自分にも実に多くの偏見があることに気付く。(f)

- この判断をすると、これは男がする表現、女がする表現とわけてしまいそうでこわい。(f)

授業のことを思い出しながら、回答したため、何らかのひっかかりを感じたのだろう。女性が(成人)女性のことを否定的に感じてしまうことの居心地の悪さを投書調査で実感したのだろう。調査によってこのような感情を抱くことになってしまった人には、さらなるフォローが必要である。この種の意識調査はやりっぱなしのままだと、その貴重な気づきに対して中途半端な状況においてしまうことになる。気づきのための有効な方法の一つとして投書調査を活用するためにも、調査者である私自身が心して取り組まねばならない課題である<sup>(4)</sup>。最後に、上述したもの以外で残しておきたいものをあげる。

- 書き手の情報(例えば60歳、男性、自営業)などを先に見てイメージしながら読んでいたか、逆に気付かされました。(A)
- 普段、書き手の性を見た上で、その性の視点に立って、読んでいる自分があったと実感。(A)
- 自分の書く文章をこのように調査してみたらどういう結果が出るのか気になる。(m)
- 今まで読んだ本などを参考にして男女を分けてみた。(m)
- 新聞投書の書き手の性別を判断するのは、推理小説で犯人当てをしているようで楽しい。(f)

書き手の性を推測するというのは、これまで受けてきた学校教育の中でも、または、人生においても、あまりすることはないかもしれない。3でさらに投書調査の意味を分析するが、これらの感想を読むと、投書調査がジェンダー意識調査として一つの有効な方法ではないかと改めて思う。

#### 1. 4 まとめ

2003年に行なった投書調査は、書き手の性と年齢に注目してみたが、結果は、回答者となってくれた大学生と社会人女性には共通した判断があることが分かった。つまり、投書の文体や内容における男女をめぐる認識やイメージが共通にあり、このようなジェンダー認識がある程度年齢を越えて貫徹しているといえ

る。また、書き手の年代の方が性よりも分かりやすいとする指摘は、「位相」についての新たな課題を与えてくれるものとなった。

最後に、今後機会があれば、社会人男性や小学生から高校生など、より多様な年齢の人たちに投書調査を行ない、文章に対する性をめぐるイメージ、認識を探っていきたい。

## 2. これまでの調査から分かること：投書内容の有効性

### 2. 1 これまでの調査の紹介

1995年から投書調査を行なってきた。1であげた2003年に行なった調査も含め、さらに全体的に総括し、現時点において、あらためて投書調査がジェンダー意識調査として有効であることを論じたい。これまでの投書調査といっても、もっぱら大学生を対象として行ない、人数もまちまちであり、また、調査対象の投書についても全てについて厳密に分析して選んだわけではないため、結果の妥当性について疑問が多く提出されると思うが、これまでの行なった6種類の投書調査を紹介しながら、みえてくることをまとめていく。

調査対象とした投書は、(1)ある日の投書欄に掲載されたものの全部をそのままコピーして行なったものと、(2)何らかの要因を絞り、選択した投書について行なったものがある。今回、6種類の投書調査を概観して改めて感じることは、正答率が、(1)の結果と(2)の結果にはそれほど差がみられなかったことである。つまり、全体として書き手の性を正解した割合は、以下にみるように、6割を越えており、依然として投書を読めば、書き手の性が分かるといえる。また、これまで行なった調査で、全投書について書き手の性を正解した回答者はそれほどいるわけではなく(1ケタ)、一方、全投書について書き手の性が当たらなかった回答者もほぼいなかったということも興味深い点である。さらに、回答者の性、年齢、専攻(文系、理系)等によっても差があまりみられなかったということも確認しておきたい。

以下、これまで行なった6種類の投書調査を紹介する(細かい数字は省略する)。

前半の3つ、表A、表B、表Cはある日の投書欄について、後半の3つ、表D、表Eは選択した投書を使用して行なったものである。

\*は実際の書き手の性と合わなかったもの

○は男性のパターン：文体であれば「だ・である体」

内容であれば、政治・経済等の公的領域を扱っている

(内容については私が判断して分類している)

「個人的事柄」:身内のことについてふれたり、個人的体験談などを記述している場合

(使用した投書は全て『朝日新聞東京本社版』に掲載されたもの)

●表の読み方

表Aにある投書番号①について、文体は「だ・である体」で書かれており、内容は労働組合について扱っているため公的領域に属するもので、個人的事柄への言及はなく、実際の書き手の性が男性で、回答者に判断された性も全体で90.1%が男性と判断している。

表A 1996年4月13日付投書欄 7通の投書 (男性2通、女性5通)

(1998年6月実施 男子学生 35名、女子学生 16名) 7通中5通正解 71.4%

投書番号	文体	内 容	その他 個人的事柄	書き手の性	判断された性(割合)
①	○	○労働組合		男性	男性 (90.1%)
②	○	○政治	孫	女性	*男性 (54.9%)
③	○	性格		女性	女性 (76.4%)
④	○	○ダム反対		女性	*男性 (62.7%)
⑤	○	○ダム反対		男性	男性 (70.5%)
⑥	○	いじめ問題		女性	女性 (72.5%)
⑦		園児への手紙	「おばあちゃん」	女性	女性 (96.0%)

表B 1997年12月5日付投書欄 8通の投書 (男性4通、女性4通)

(1998年6月実施 男子学生 9名、女子学生 44名) 8通中7通正解 87.5%

投書番号	文体	内 容	その他 個人的事柄	書き手の性	判断された性(割合)
①	○	○エンジン停止	娘	男性	男性 (56.6%)
②	○	○国際会議を		男性	男性 (62.2%)
③	○	ゴミ捨て反対	筆者:「僕」	男性	男性 (96.2%)
④	○	介護		女性	女性 (54.7%)
⑤		障害者		女性	女性 (96.2%)
⑥	○	親切		女性	*男性 (50.9%)
⑦	○	○自転車泥	孫	男性	男性 (77.3%)
⑧		空缶拾い		女性	女性 (54.7%)

表C 1996年1月5日付投書欄 統一テーマ「政治家よ」

9通(男性7通、女性2通)

(1997年4月実施 男子学生 11名、女子学生 43名)9通中7通正解 77.7%

投書番号	文体	内 容	その他 個人的事柄	書き手の性	判断された性(割合)
①	○	○		男性	男性(87.0%)
②	○	○		男性	男性(70.3%)
③	○	○		男性	男性(87.0%)
④		○		女性	女性(100%)
⑤		○		男性	*女性(66.6%)
⑥	○	○		男性	男性(88.8%)
⑦	○	○	妻	男性	男性(87.0%)
⑧		○		男性	男性(53.0%)
⑨	○	○	祖父	女性	*男女半々(44.4%)

表D 1995年10月3日付の投書8通から5通選択(男性4通、女性1通)

(1995年10月実施 男子学生 120名、女子学生 112名)5通中3通正解 60%

投書番号	文体	内 容	その他 個人的事柄	書き手の性	判断された性(割合)
①	○	○政治家		男性	男性(59.0%)
②		料理		男性	*女性(74.5%)
③	○	○金融		男性	男性(88.7%)
④	○	小学生の体格	姪	女性	女性(68.1%)
⑤	○	○仏の核実験		男性	*女性(59.4%)

表E 山一証券自主廃業に関する投書 8通(男性4通、女性4通)

(1999年~2001年実施 男子学生 298名、女子学生 237名)8通中6通正解 75%

投書番号	文体	内 容	その他 個人的事柄	書き手の性	判断された性(割合)
①		○責任		男性	*女性(59.2%)
②	○	友人	女友達	女性	女性(91.4%)
③		○再就職	個人的事柄	男性	男性(96.6%)
④	○	○経営陣		女性	*男性(79.8%)
⑤		○社員の今後		女性	女性(55.3%)
⑥	○	○私財提供	個人的事柄	男性	男性(91.2%)

⑦		母	母	女性	女性 (81.5%)
⑧	○	○責任		男性	男性 (82.4%)

表F 2003年の調査 5通 (男性3通、女性2通)

(2003年1月実施 大学生 73名、社会人女性 78名) 5通中3通正解 60%

投書番号	文体	内 容	その他 個人的事柄	書き手の性	判断された性(割合)
①	○	介護	友人	男性	男性 (88.0%)
②	○	ラジオ深夜便	母	男性	*女性 (70.8%)
③	○	ギンナン拾い	個人的事柄	男性	男性 (63.5%)
④	○	○核兵器		女性	*男性 (51.6%)
⑤	○	旅行	個人的事柄	女性	女性 (72.8%)

これまで行なった投書調査の全体的傾向をまとめると以下のようなになる。なお、具体例で使用する\*は不正解を示す。具体例は一部のみあげる。

<1>相互排除的性差の語彙がある場合：9割以上が正解

例) B-③

<2>文体と内容について、性の典型的パターンがある場合：6～9割が正解

例) 男性 「だ・である体」+公的領域 A-①, C-①

女性 「です・ます体」+私的領域 B-⑤, E-⑦

<3>文体と内容について、性の典型的パターンがあり、かつ、書き手の性が逆の場合(逆典型的パターン)：\*5～7割

例) 男性 「です・ます体」+私的領域 \*D-②

女性 「だ・である体」+公的領域 \*E-④

<4>文体と内容について、ズレがある場合：

男性、女性ともに 「です・ます体」+公的領域

「だ・である体」+私的領域

a) 個人的事柄(身内や体験談などの言及)がある場合：9割正解

例) E-②

b) 内容で判断される場合：5～7割

例) 男性 C-⑧

